

架け橋期のカリキュラム作成

にも取り組んだ3市の実践

ふくしま幼児教育研修センター

本実践研究は、幼児教育の質の向上と幼小連携の充実を目的に、令和5年度から3年間の取組として実施しています。本年度は研究の2年目に当たります。モデル地区の設定については、県内を浜・中・会津に分け、その中から南相馬市、田村市、喜多方市を指定させていただき、これまでの各市での取組を基盤にして取り組んでいただいております。

本報告書は、モデル地区3市の取組について一部を抜粋して紹介する形でまとめました。本年度は、幼児教育の充実に関する取組に加え、**架け橋プログラム**や**架け橋期のカリキュラム作成**に関する取組を重点的に掲載しています。（各地区が本年度に策定または試作として作成したカリキュラムについては本報告書の巻末に掲載）

カリキュラム作成に向けた取組や期間、作成したカリキュラムは3地区とも異なります。本報告書を御覧になった県内各地の幼児教育施設や小学校、市町村行政に関わるの方々には、モデル地区における取組の中から、自身の取組に取り入れられそうなことがあれば積極的に取り入れ、幼児期及び架け橋期の教育の充実につなげていただければ幸いです。



【用語について】

幼 小 連 携

幼児教育施設と小学校との連携のこと。
連携する幼児教育施設は、公私立の別なく、施設種を問わないものとしている。例えば、「幼小連携」と表記していても、保育所や認定こども園も含んでいる。

ふくしま幼児教育 研 修 セ ン タ ー

県庁内3課（私学・法人課、子育て支援課、義務教育課）が連携して令和5年4月に設置。公私立の別、施設種を問わず、県内全ての幼児教育施設の保育者に対する研修を一元的に実施している。

令和6年度 田村市における取組

I はじめに

本市には、4歳児・5歳児が通う施設として、公立幼稚園3園、市こども園2園、私立保育園1園、私立認定こども園1園がある。その他に公立保育所が2園あり、主な幼児教育施設は計9園ある。市立の小学校は7校ある。

昨年度は、市内の公立幼稚園・こども園だけでなく、私立の保育園、認定こども園とも連携し、互いに保育を見合い、取組を共有しながら研修を進めたことが大きな成果であった。この数年、各園が進めてきた保育改善について保育参観を通して共有し合い、0歳児からの遊びを通した学びは、その後の学びにどのようにつながっていくのかを実際の保育場面を通して確認した。

本年度は、本市の子どもたちの育ちや学びの具体的な姿を通して、「架け橋期の教育の在り方」について共有し、保幼小連携推進委員（公立保育所2名、公立園5名、私立園2名、公立小学校4名）を中心として、架け橋期のカリキュラム作成に着手した。

II 幼児教育の質の向上に向けて

6/11(火)

滝根保育所市内公開保育

(0～3歳児)

内 容：遊びを支える保育環境の工夫

参加者：公私立園 17 名



<環境構成の工夫例>



<事後研修会の様子>

県によるモデル地区指定以前より0歳児からの遊びについて研修を深めてきた本市では、架け橋期だけでなく未満児の「やってみたい」につながる環境構成や援助についても検討や情報共有を継続している。

今回の公開保育は、当初園内研修として実施する予定だったが、市教委担当から保育所長に依頼し、公開保育として実施していただいた。その結果、私立園からも複数の参加があった。参観後には参加者が滝根保育所の保育者に対して、環境構成等について質問をする姿が見られた。

指導主事からは以下の助言があった。

- ・ 環境面：暑くなる季節であるが、様々な所に日陰（木陰、テント）があり、涼しい環境の中で好きな遊びに取り組むことができていた。
- ・ 援助面：子どもの発達段階に応じた関わりがなされていた。特に3歳児は、友達と物の取り合いをした子どもに対して、すぐに仲裁するのではなく、子どもの気持ちを代弁したり、正しい関わり方を教えたりする援助が見られた。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

4/24(水)

保幼小連携推進委員会①

都路こども園・都路小学校市内公開
保育・授業(0~5歳児)(1年生)

内 容:

【午前】公開保育・授業参観

【午後】保育・授業に関する協議
組織づくり・年間計画確認
架け橋期のカリキュラム作
成に向けての協議。

参加者: 保幼小連携推進委員 13 名



<自分たちで場の設定をする1年生>

6/10(月)

保幼小連携推進委員会②

内 容: 架け橋期のカリキュラム作
成に関する研修・協議

参加者: 保幼小連携推進委員 13 名

7/9(火)

大越こども園・大越小学校モデル地区
公開保育・授業(4,5歳児と1年生)

内 容:

【午前】幼小合同保育・授業参観

【午後】グループ協議

参加者: 市内参加者 31 名
市外参加者 48 名



<保育者・教員による事前打合せの様子>

こども園では、今年度から0~5歳児が園内を自由に動き回り、主体的に遊ぶことができるよう環境を整えたことで、異年齢児との関わりがさらに深まっている様子が見られた。教室だけでなく、移動をする廊下にも、体を動かしたくなる環境構成が随所に見られた。

小学校では1年生の体育科において、友だちと協力しながら場の設定をする姿が見られた。生活科単元の学校探検の導入では、こども園時代から知っている先生がいたり、前年度からの交流を引き続き行ったりすることにより、子どもの学習に対する安心感が生まれていることがうかがえた。ものと人それぞれの環境構成の大切さを学んだ。

午後の研修では、本市の目指す子どもの姿を「主体的に学び、表現する子ども」とすることとし、共有した。この姿の実現に向けて、田村市版架け橋期のカリキュラム作成に着手することを含む年間計画の確認をした。

「架け橋プログラム実施の手引き」に示されている様式を使用してカリキュラム作成の演習を行った。実施してみると保育者と小学校教員の「遊びや学びのプロセス」「環境構成・環境づくり」に関し、特に相違点が多いことを改めて実感した。

指導主事からは以下の助言があった。

- ・幼小の先生同士が実際に話し合うこと
- ・対話を通して、互いの具体的な取組や子どもの姿を共有することが大切である

会議後に委員から「架け橋期のカリキュラム作成は、思ったより難しい」という意見が多数あったため、今後の推進委員会でも継続研修が必要であることを確認した。この回以降の推進委員会では、保育・授業参観で見取った子どもの姿から架け橋期のカリキュラムについて具体的な検討と作成を継続していくこととした。

7/18(木)

宮城県白石市視察（先進地視察）

内 容：架け橋期のカリキュラムに
ついての情報収集

参加者：保幼小連携推進委員 4 名

9/13(金)

保幼小連携推進委員会③

内 容：架け橋期のカリキュラム作成

参加者：保幼小連携推進委員 13 名

10/24(木)

船引南幼稚園・船引南小学校モデル
地区公開保育・授業

（4,5 歳児と 1 年生）

内 容：

【午前】幼小合同保育・授業参観

【午後】グループ協議

学習院大学 教授

秋田喜代美氏による講演会

参加者：市内参加者 25 名

市外参加者 63 名

11/26(火)

保幼小連携推進委員会④

（田村市教職員研修を兼ねる）

常葉幼稚園・常葉小学校市内公開

（5 歳児）（1 年生）

内 容：

【午前】5 歳児の保育参観

小学校教科学習の授業参観

【午後】「学びをつなぐ」保育者等の
援助・環境構成の工夫につ
いての協議会

参加者：保幼小連携推進委員 13 名

市内園・小・中教員 3 名

第 2 回目のモデル地区公開保育・授業は、併設園で実施した。普段から園児が小学校に出向き集会活動を行っている。

当日に向けての経緯は以下のとおりである。

○ 9/5(木) 幼小交流活動①・打合せ

指導主事から、交流活動では、幼児教育と小学校教育の共通点に着目すること、その上で主体的な活動（遊び）という視点で内容を検討する必要があるという指導助言を受けた。幼小担任同士で日常的に話し合っていくことの重要性を確認した。

○ 9/20(金) 幼小交流活動②・打合せ

○ 10/17(木) 幼小交流活動③・打合せ

公開当日は、運動遊びと秋の自然物を使ったおもちゃ作りを行った。幼小混合のグループでの活動であったが、子どもたちがやりたい動きや素材を選択する機会が保障されており、主体的に取り組む姿が見られた。交流活動を通して指導者が話し合いをすることで、相互理解にもつながった。

これまでの推進委員会同様、午前中の保育・授業参観での子どもの姿を共有しながらカリキュラム作成を進めた。本研修会は田村市教職員研修に位置付けており、推進委員ではない教員の参加もあったため、架け橋期のカリキュラムの目的である「幼児教育の特性に関する認識の共有」を再確認した。協議は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点にすることを予め確認し、10 の姿に照らして話し合いを進めることができた。環境構成・援助の工夫については、田村市版カリキュラムに例示されているものが多くあった一方で、まだ例示されていないものについては反映するため、全体で意見を共有した。家庭や学校運営協議会との連携、保幼小中一貫教育に係る取組については、各中学校区の特色を活かし地域単位で作成していくことを確認した。

1/30(木)

保幼小連携推進委員会⑤

滝根幼稚園・滝根小学校市内公開保育・授業(4, 5歳児)

(5歳児と1年生)

内 容:

【午前】主体的に学び表現する5歳児の遊びと小学校教科学習のつながりを視点とした保育・授業参観

【午後】子どもの姿(育ち)から主体性・表現力を育むために取り組ませたい活動、環境構成や援助についての協議
架け橋期のカリキュラムに関する協議

参加者: 保幼小連携推進委員 13名

3/27(木)

保幼小連絡会

内 容: 幼児の実態と情報の共有

参加者: 年長児担任・新1年担任
16名

前半の保育参観では、子どもたちの主体性を大切にした保育が展開され、一人一人の子どもたちが自分のやりたい遊びに思いきり取り組む様子が見られた。

後半の5歳児と1年生との交流活動では、1年生がお店屋さん、5歳児がお客さんになり、お店屋さんごっこを楽しんだ。遊びと表現活動をする場と時間が十分に確保されていた。売り買いのやり取りだけでなく、各お店にワークショップのコーナーがあり、5歳児が小学生に教えてもらいながらおもちゃ等を作る場が設定されていた。感想発表では小学生10人、幼児5人が挙手して発表。手を挙げた子どもたち全員に発表の場が保障されていた。



<積もった新雪で雪遊びをする様子>

Ⅳ おわりに

本年度の成果としては次のことがあげられる。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

- ふくしま幼児教育研修センターの研修支援では、各園の保育を参観後に指導助言を受けることができ、実態に応じた環境構成や援助について具体的に学ぶことができた。

また、モデル地区での公開保育に向けた活動計画や内容についての支援では、幼小連携についての意義や目的について学ぶことで、連携の意義を十分に理解できた。さらに、これまでの取組についての振り返りから「継続して取り組むこと」「改善が必要なこと」について具体的に指導を受けることができ、保育・授業計画をたてる際に大変参考になった。

(2) 幼小連携の充実に関して

- 本市の目指す子どもの姿を「主体的に学び表現する子ども」と保幼小連携推進委員会において決定し、推進委員を中心として、田村市版架け橋期のカリキュラム作成に着手し、試案を作成することができた。

○ カリキュラム作成を複数回に分けて行ったことで、保育者と小学校教員との間で相違点があることを実感できた。特に相違点が多くある2つの視点（「遊びや学びのプロセス」「環境構成・環境づくり」）について、実践的な話し合いを重視していく必要があることが分かったので、その後の架け橋期のカリキュラム作成については、有意義な話し合いを行うことができた。

○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として協議を進めたことで、10の姿に照らして話し合いを進めることができた。また、テーマを設定し共通の視点での保育・授業参観をすることは、子どもの姿を見取る力の向上につながった。

(3) その他

○ 架け橋期の教育の在り方について、ふくしま幼児教育研修センターによる研修支援や指導・助言を年間を通して受けたことで、その目的や意義についての学びをさらに深めることができた。また、こうした研修支援は、幼児教育についての理解をより深めたいという意欲を高め、各種研修に能動的に参加する教職員を増やすことにつながった。



<研修支援の様子>

次年度については、次のことに特に注力していきたいと考える。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

○ 地区内での公開保育・授業の開催と園内研修を継続する。

(2) 幼小連携の充実に関して（主に架け橋期のカリキュラム作成について）

○ 「表現できる子ども」の育成に向けた視点が不足している。表現できる子どもを育むための配慮に関する環境構成の工夫の具体例について検討する。

○ 「言葉による伝え合い」につながる力の育成方法の明確化が必要である。5歳児の始めと終わりで育みたい力を明確にするとともに、そのための活動・保育者の援助方法を整理、検討、実践していく。

○ 小学校段階での教師の関わりについて具体例の充実を図る必要があるため、小学校とのさらなる連携強化を図り、継続して意見を収集し改善につなげる。

(3) その他

○ 教育の一貫性や連携の強化を図るため、中学校区ごとに田村市版架け橋期のカリキュラムに加除修正をして、地域ごとの実情に合った教育内容を展開する。また、校区内での園・小学校・中学校間での合同研修や合同会議を充実させていく。

令和6年度 南相馬市における取組

I はじめに

2年目の本事業実践研究も公立幼稚園3園、公立保育園3園、公立認定こども園1園、私立幼稚園3園、私立保育園4園、私立認定こども園1園、小学校11校の共同研究として行ってきた。

昨年度から市内の全小学校の1学年担当教員と、市内の全公立・私立の幼児教育施設5歳児担当者が、幼小連携・接続研修会として年3回集まり、幼小連携や「架け橋期」に関する理解を深めたり、協議の場を設けたりしてきている。話し合いを重ねる中で、幼小双方の考え方の相違点や共通点についても改めて知り、相互理解を図りながら共に取り組んでいくことの重要性に気付くことができていると言える。

特に本年度は、私立・公立の幼児教育の質的向上を図るとともに、幼児教育側と小学校側が互いに大切にしている「子どもの育ち」に重点を置き、エリアごとの架け橋期のカリキュラムの試案作成を含めた実践研究に取り組んだ。

II 幼児教育の質の向上に向けて

6/6（木）

おだか認定こども園 市内公開

参加者 公立、私立園から37名

【午前】 公開保育（3～5歳児）

【午後】 グループ協議

テーマ

- 1 義務教育を終える段階で身に付けておくべき力とはどんな力か
- 2 テーマ1を受けて幼児期ではどのような力を付ければ良いか
- 3 テーマ2の実現のために重要な物的・人的環境はどのようなものか



保育教諭が年齢に合わせて設定した環境で、のびのびと好きな遊びを楽しむ幼児の姿が見られた。

午後の協議では南相馬市で育つ子ども達がどのような大人になってほしいか、そのために幼児教育はどうあるべきかについて協議した。

「就学」を見据えての幼児教育となりがちであるが、環境を通した教育の中で学びや生活の基盤を培う幼児期だからこそ、将来を見据えていくことの重要性に立ち返った。

これからの時代を生き抜くために必要な、資質・能力の3つの柱を育てるためには、どのような環境を構成していくか、特に自分たちを含めた人的環境をどう捉えるかを話し合った。また、環境を通して行うことが原則である幼児教育について再確認する場となった。

指導主事からは、幼児教育施設同士の横のつながりを一層大事にすることで、市内の幼児教育の質が高い水準でそろえること、また、幼小の関係者が対面して話し合うことで、互いの教育内容や方法を理解し合い、子どもたちの学びをスムーズにつなぐことができることについて助言があった。

7/11 (木)

高平幼稚園 市内公開

参加者 公立、市立園から 35 名

【午前】 公開保育 (3 ~ 5 歳児)

【午後】 グループ協議

テーマ 自分の思いが伝えられるようになるには



あいにくの天気となったが、雨でも工夫して外遊びを行っていた。砂場での山作りが盛り上がり、水路に水が通ると歓声が上がる。一方、畑で「虫いないね。いつもならいるはずの畑に今日はいない。」とじっと観察する子どももいた。雨粒でいっぱい葉っぱに顔を近づけて不思議そうに覗き込み「かくれたのかな。」という友だちの言葉に同調し、周囲の葉に目を向け、雨の日の自然に目を留める姿が見られた。

協議では年齢ごとにグループで分かれて、その年齢と発達を踏まえて、「自分の思いを伝えられるようになるにはどうしたらよいか」を話し合った。なぜ自分を表現することが大切なのか、そのためにどのような環境が必要なのか、現在自分の園ではどのような姿が見られているのかについて話し合った。

7/25 (金)

かみまの保育園 域内公開

参加者 公立、市立園から 36 名

【午前】 公開保育 (1 ~ 5 歳児)

【午後】 グループ協議

テーマ

- 1 参観し持ち帰って試してみたいこと
- 2 『自分の思いを伝える』ために、次のクラスに引き継ぐ育ちとは
- 3 その育ちを育むための環境とは



園庭、室内を自由に出入りして好きな場所で遊ぶ子どもたち。大きい子ども達が楽しそうに遊んでいる場に、入っていく小さい子の姿が見られた。砂場の穴掘りに夢中になっていた所に入ってきた3歳児を受け入れる4歳児。年長のクラスにフラッと入ってきた1歳児に対して、優しく手をつなぎ歩調を合わせてその子の保育室まで誘導する5歳児。園児数が少ない園だからこそみんなが顔見知りであり、温かな異年齢児交流が行われていた。

午後の協議は、現在担当しているクラスから進級して次のクラスに引き継ぐ育ちや、その育ちを育むためにどのような環境が必要かについて話し合った。1~5歳児クラス担当別にグループを分けたことで、その年齢の発達段階に応じてどうしていくか具体的に話し合うことができた。相双地区の私立・公立園混合のグループ編成であったため、それぞれの地区の現状等について情報交換の場にもなった。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

5/23(木)

第1回幼小連携・接続研修会

参加者 市内公私立園、市内小学校
から 50 名

- ・ 架け橋プログラムの動向について
- ・ 視点に基づいた架け橋期のカリキュラムの作成について
- ・ 幼保小と小学校との対話による相互理解と今後の方向性について

保育者と小学校教員が、共に架け橋期について話し合うことが、交流の在り方を考えたり相互理解につながったりする機会になっていることを確認した。

また、昨年度の幼小連携を基に、今年度の取組を小学校教諭と研修を通して共有することで、今後の交流や活動への見通しを持つことができる機会となった。

8/19(月)

第2回幼小連携・接続研修会

参加者 市内公私立園、市内小学校
から 50 名

- ・ 研究発表（2歳児・4歳児）
- ・ グループ協議 「幼児の育ちを小学校にどうつなげていくか」

地区ごとに分かれ、架け橋期に目指す子ども像について協議した。遊びで育つ学びの基礎をどのように学習意欲につなげていくか、各園や小学校での実態を踏まえ話し合った。

小学校教員からは午前に参加した遊びの姿や、子ども達のミーティングの場面から、授業とつながりを感じる部分があったとの声が多くあがった。幼小双方から、子どもの気持ちを汲み取り、子どもの思いや発想を学びにつなげていくことの難しさや苦労について意見が出され、共通理解を図る機会となった。

10/24 (木)

鹿島幼稚園 モデル地区公開

参加者 66 名

【午前】 公開保育（3～5歳児）

【午後】 基調講演

テーマ 年齢に応じた発達をつみかさね小学校に円滑に引き継ぐための相互理解

演題：幼児期の発達や学びの連続性を保障する保育・教育のあり方

講師：大妻女子大学名誉教授

大阪保育総合大学大学院特任教授
阿部和子 氏

教育・保育の中で育まれた資質・能力を幼児教育から小学校教育へと円滑につなぐために、教職員の相互理解を図る目的で講師を招聘し研修会を開催した。

その中で、幼児期に自らの興味・関心によって展開される日常を十分に体験することで、学びに向かう力や未来へ向かう力が蓄積されていくこと、「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換期を迎えており、学校だけの問題ではなく、幼児期でどう過ごすかが非常に重要であること、遊びの中で体験・経験していることが学びであり子どもを育てることであるなどお話をいただいた。事例を交えての講演は、保育者にはより深い学びを、小学校教員には幼児教育の特性の理解を促す貴重な機会となった。



11/14 (木)

おだか認定こども園 モデル地区公開

参加者 76 名

【午前】 公開保育 (0~5 歳児)

【午後】 グループ協議

テーマ 架け橋期のカリキュラム作成に向けた取組について

・南相馬市の取組の説明



グループ協議では、各地区の幼小連携の現状や課題について話し合った。地区によって連携の進度にばらつきがあり、課題や悩みが多々出ていた。幼児教育施設側としての要望、小学校側の本音など、どのように擦り合わせていけば進展に結びつくのか、各グループで話し合った。モデル地区公開ということで他地区からの参加者も多く、様々な現状を基に話し合えるという利点があったように思える。協議では、カリキュラム作成に向けて、「小学校と幼児教育施設の職員が交流や連携を通して相互理解のための話し合いの機会を設けることが必要なのではないか。」という意見が出ていた。

指導主事からは、「やってみたい」という子どもの意欲が学びの芽であることを捉え、子どもの実態によって環境構成も変わってくることや、援助する保育者の姿勢や言葉かけなどを通して、子どもたちが相手のよさに気付いたり、協同して活動することの大切さを学んだりしていくため、人的環境が重要であることなどについて指導をいただいた。

1/16(木)

第3回幼小連携・接続研修会

参加者 市内公私立園、市内小学校から
35 名

- ・地区ごとの経過について
- ・学校探検の企画について
- ・次年度の計画について



架け橋期のカリキュラム作成のための協議が行われた。目指す子ども像を共有するとともに、保育者・小学校教員の関わりや環境構成の在り方について具体的に話し合いが進んだ。幼小連携・接続研修会を通して、幼児教育や小学校教育の関係者がカリキュラム作成に関わることで互いの指導方法や内容について理解し、それぞれの指導方法の充実改善に取り組み始めた。

指導主事からは、交流活動等の目的が子どもたちの姿を捉えたものになっているか確認が必要であること、幼小互いの目的が達成できる交流にするために事前・事後の話し合いが重要であることなどについて指導をいただいた。

IV おわりに

本年度の成果としては次のことがあげられる。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

- 市内公開保育の機会を複数回実施し、設置主体や園種の異なる保育者同士が互いの保育を見合う機会を多く設定した。同じ場面での子どもたちの姿について、10の姿に照らして話し合うことで、子どもを見取る目を養うことができた。また、よりよい環境構成について意見を出し合うことで、保育改善に向けモチベーションをあげる機会となり、保育の質的向上につながった。

(2) 幼小連携の推進に関して

- 南相馬市を5つのエリアに分けて話し合いをしたことで、それぞれのエリアの状況にあった話し合いができ、相互理解が深まった。また、エリアごとの関わりも増え、年3回の集まりだけではなく、エリアごとに交流活動を行う中で、定期的に保育者、教員同士の保育参観やカンファレンスを行い、園での活動からの子どもの姿と一緒に話し合う機会を設けてきたことにより、幼児教育と小学校教育の共通点や違いにも気付くことができた。例えば、幼児教育では長期のねらいから週案という短期のねらいを立案し、幼児の育ちを捉えているが、小学校教育は単元としてねらいがあり授業を行っているなど、幼小連携の取組を進めていく中で、そういった相互理解が改めて必要であると感じた。
- 幼小連携の成果をエリアごとに発表する機会をつくったことが刺激となり、他地区の取組を参考に交流前の打ち合わせや交流後の振り返りをエリアごとに日程調整して行えるようになってきている。「架け橋期のカリキュラム」については、エリアごとに話し合いを続けてきたことで、小学校側・幼児教育施設側の思いを語り合うことができ、子どものどのような育ちをつないでいけばよいのかなど、中には深く共通理解を図ることができたエリアもあった。

次年度については、次のことに特に注力していきたいと考える。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

- 保育の質の向上を図るために、市内全園の保育者向けの研修を計画的に実施する。
- 保育の質の向上を図るために、公開保育を計6回(地区内2回、市内2回、浜通り域内2回)実施する。また、小学校関係者が幼児教育に関する理解を深める機会とするために、夏休み中に行う保育園の公開保育には小学校校長や低学年担任に参加を促す。

(2) 幼小連携の推進に関して

- 令和6年度にエリア毎に試案として作成してきた「架け橋期カリキュラム」を、令和7年度は使用しながら見直しを行い、「南相馬市架け橋期カリキュラム」策定に向けて取り組んでいく。
- 架け橋期の教育の充実に資する取組となるように、関係機関の参画による架け橋期開発会議を年2回実施し、「幼保小の架け橋期カリキュラム」の実施、評価、改善について話し合いを行う。
 - ・ 開発会議メンバー：小学校校長会1名、私立幼稚園園長会1名、私立保育園長会1名、私立認定こども園会1名、公立園長会1名、学校教育課1名、こども育成課1名、幼児教育アドバイザー2名
- 小学校の授業を保育者が参観する機会を設けたり、園児と小学生の交流活動を計画的に行ったりして、幼保小の連携と相互理解を深める。

令和6年度 喜多方市における取組

I はじめに

本市には、私立幼稚園2園、私立幼稚園型認定こども園1園、公立幼保連携型認定こども園10園、私立保育所10所、小学校17校がある。

昨年度の実践において、市内すべての公立及び私立の幼児教育施設の代表者が集まる「教育保育業務情報交換会議」を新たに開催し、幼児教育の質の向上及び幼小連携の現状等について情報交換等を行ったことにより、「架け橋プログラム」の重要性について認識を深めることができた。また、2回の「幼児教育・小学校教育担当者連携研修会」を行ったことにより、小学校教員の幼児教育への理解が大きく深まった。一方、各幼児教育施設や各小学校において「架け橋期」の重要性についての理解は進んだが、その具体的な実践については、取組が進められていない現状である。

そこで、本年度は、昨年度実施した研修会等の内容について充実を図るとともに、「架け橋期のカリキュラム」作成及びその活用に向けた実践研究に取り組んだ。

II 幼児教育の質の向上に向けて

7/23（火）

教育保育業務情報交換会議①

- ・ 協議テーマ
「架け橋期のカリキュラムの重要性とその視点について」
- ・ 公立園10名、私立園15名参加、計25名の参加

昨年度より開催しているすべての公立、私立園が参加する会議である。

ふくしま幼児教育アドバイザー養成研修受講中の保育者が中心となり、以下の視点で話し合った。

- ・ 各施設の強みを生かした保育の実践例
- ・ 幼小連携の進め方や在り方
- ・ 公立、私立合同の研修会の実施に向けて
また、指導主事からは以下の助言があった。
- ・ 「架け橋期」の学びをつなぐには幼児教育の充実がとても重要である。
- ・ 公開保育に全小学校からの参加があることを生かして幼児期の学びについて協議し、互いの理解を深めてほしい。

10/3（木）

教育保育業務情報交換会議②

- ・ 研修テーマ
「架け橋期の育ちや学びをつなぐ～幼児教育の質の向上に向けて～」
- ・ 福島学院大学 准教授
二谷京子氏による講演会
- ・ 公立園17名、私立園23名参加
計40名の参加

前回の会議で話題となった「公立、私立合同の研修会」を兼ねて開催した。参加者については、経験年数の短い先生方に出席を促した。

二谷准教授の主な講演内容は以下のとおりである。

- ・ 幼児教育の効果に対するエビデンスの増加
- ・ 質の高い幼児教育の具体
- ・ 「架け橋期」の充実に向けた取組

1/17 (金)

こすもす保育園市内公開保育

(1,2 歳児)

- ・ 研修テーマ
「遊びを通した学びと環境の構成・援助」
- ・ 園長、保育者、行政関係者を含め
20 名の参加

こすもす保育園は、私立の小規模保育事業所である。ふくしま幼児教育研修センターが実施している園内研修支援を活用して開催した。

子どもたちにとって魅力のある環境を構成しながら「初市」をイメージした初市ごっこに取り組んだ。

指導主事から「保育所保育指針」に基づいた 1～3 歳未満児の発達の特性と保育者の関わりについて指導助言を受けた。

Ⅲ 幼小連携の充実に向けて

5/27 (月)

実践研究推進委員会①

内容：本年度の計画、公開保育、「架け橋期のカリキュラム」作成の方向性について

<実践研究推進委員会の構成>

1	私立保育所長	8	研修アドバイザー
2	私立保育所長	9	研修アドバイザー
3	私立保育所主任 ★追加	10	小学校長★追加
4	私立保育所主任 ★追加	11	小学校教諭
5	公立こども園長	12	小学校教諭
6	公立こども園長	13	学校教育課
7	研修アドバイザー	14	こども課

昨年度の成果と課題を踏まえた今年度の計画について協議した。

特に、公開保育を実施する 2 園の代表者からは、公開保育に関して不安の声が上がった。「喜多方市」としての取組であり、推進委員会が全面的にバックアップしていくことが確認された。

本委員会は架け橋期のカリキュラム開発会議を兼ねた組織である。架け橋期のカリキュラムの作成については、公私立の違い、幼児教育と小学校教育の連携を深めるための方法等について意見が出た。

委員について、今回は市校長会から 1 名及び私立保育者の主任 2 名を追加することとした。

7/25 (木)

高郷こども園モデル地区公開保育

(0～5 歳児)

(喜多方市幼児教育・小学校教育担当者連携研修会を兼ねる)

内 容：

【午前】保育参観

【午後】グループ協議

参加者：市内から 45 名

市外から 24 名

幼小連携研修会を兼ね市内の公立園及び小学校については、悉皆研修として実施した。公開保育は雨天時案で実施し、グループ協議は、子どもの姿をもとに、ふくしま幼児教育アドバイザー養成研修受講中の保育者が中心となり、以下の視点で話し合った。

- ・ その子らしさを発揮しながら遊んだか
- ・ 環境構成、保育者の援助（かかわり）の工夫
- ・ 小学校の学びとのつながり
- ・ 自園・自校で生かしたいこと

協議では、小学校の教員も積極的に発言し、遊びの中に見られた学びの姿や、幼児教育ならではの保育者の関わり方について理解を示す発言が多かった。



<右：協議で出された意見>

小学校へのつながり	自分の取組へ
・野菜スタンプ、野菜の種→生活科 ・図工、音楽（音さがし） ・水の流れ→理科 ・野菜スタンプの事前指導→食育 ・保育者の肯定的な関わり方 ・自分の遊びをやってみたいという気持ち ・子ども同士のかかわり（社会力） ・子どもの発信をまち主体性を育てる ・一つの遊びをやり続ける気持ち	・雨の日の遊びの教材の工夫 ・子どもたちが遊びこめる時間の確保 ・写真を使った振り返り ・環境を通した遊びはやっぱり大事 ・子どものことを信じること （見守る、手出し過ぎない、共感的言葉） ・子ども一人一人の思いを受け止め尊重

8/23（金）

実践研究推進委員会②

内 容：「架け橋期のカリキュラム」
作成

今回から、市校長会から推薦を受けた小学校長1名と私立幼児教育施設から主任2名を加えて実施した。

教育委員会が作成したカリキュラム案をベースに市の共通カリキュラムについて協議した。

カリキュラムの内容に関する初めての話し合いだったため「喜多方市で育みたい子ども像」を決定するには至らなかったが、継続して話し合いをもつことを確認した。

11/12（火）

ドレミ保育園モデル地区公開保育・授業

（喜多方市幼児教育・小学校教育担当者連携研修会を兼ねる）

内 容：

【午前】5歳児と上三宮小学校1年生との交流活動の参観

【午後】グループ協議、講演会

講 師：福島学院大学 准教授
二谷京子氏

参加者：市内から41名
市外から38名

第2回目のモデル地区公開保育・授業は、私立保育所と公立小学校の交流活動として実施した。

当日に向けての経緯は以下のとおりである。

○ 10/11(金) 第1回打合せ

※ 校長、教頭、園長、5歳児担当、1年生担任、市教委担当、義務教育課指導主事が参加

○ 10/29(火) 小学校の授業参観・第2回打合せ

※ 園長及び5歳児担当が小学校の授業を参観

○ 11/5(火) 幼小交流活動・第3回打合せ

※ 5歳児と1年生との初めての交流

授業参観や打合せを通して、担当者同士が幼児教育と小学校教育との共通点や相違点等についての相互理解を深めていった。

公開保育・授業では、幼児、小学生混合のグループで秋の自然物を使ったおもちゃ作りを行った。

公開保育後の協議では、各グループに小学校教員が入るようにし、10の姿を視点に子どもの学びについて話し合った。

二谷准教授からは、私立園も含めた市の取組を評価いただくとともに、「学びをつなぐ幼保小の交流活動」をテーマに御講演いただいた。



1 / 17 (金)

実践研究推進委員会（事前打合せ）

内 容：「架け橋期のカリキュラム」
修正案の確認

参加者：研修アドバイザー、市担当
者、義務教育課指導主事

8月に実施した第2回実践研究推進委員会において協議したカリキュラム案に加筆修正したものについて検討した。主な協議内容は以下のとおりである。

- ・ 喜多方市として「目指す子どもの姿」について
- ・ カリキュラムの縦軸（共通の視点）について
- ・ 共通の視点に関する内容について

※ 活動内容の具体例

※ 環境構成における「時間的」「人的」な内容

※ 保育者・教員による具体的な言葉かけの例

指導主事からは、話し合いを重ねる毎に内容がブラッシュアップされている。環境構成や言葉かけについて具体例が示され、架け橋期の教育について保育者と教員が相互理解を図るための助けになる内容であるとの助言があった。

2 / 12 (水)

実践研究推進委員会③

内 容：「架け橋期のカリキュラム」
修正案についての協議

事前打合せを受けて再修正した「架け橋期のカリキュラム」について検討した。活動内容や保育者・教員との関わりについて委員から意見が出された。

出された意見をもとに、事務局で修正を行い、「喜多方市版架け橋期のカリキュラム」が完成した。特徴としては、「幼児教育と小学校教育の違い」や「架け橋プログラム」の目的等について明記したことにより、幼小連携の研修会等でも活用できるようにしたところである。

IV おわりに

本年度の成果としては次のことがあげられる。

(1) 幼児教育の質の向上に関して

- 教育保育業務情報交換会議を開催したことにより、本市全ての幼児教育施設が「架け橋期」の重要性を再認識するとともに、今後の取組の方向性について理解を深めることができた。
- 私立小規模保育事業所が、公開保育を実施したことは大きな成果である。教育保育業務情報交換会議において幼児教育の重要性について共通理解を図るとともに、異なる園の保育者同士が顔を合わせ、関係性を構築できたことが大きい。

(2) 幼小連携の充実に関して

- 喜多方市版「架け橋期のカリキュラム」の作成について、公立、私立の幼児教育施設と小学

校教員そして行政担当者が、様々な意見を出し合いながら協議を重ねてきたことにより、それぞれの教育内容・方法の相互理解につながった。

- 2回の公開保育（兼：幼児教育・小学校教育担当者連携研修会）について、全ての小学校からの参加を悉皆にしたことにより、小学校教員の幼児期の学びについて理解が深まった。

(3) その他

- 公開保育において公立小学校と私立園の交流を実施したこと及び私立園を含む複数の園において公開保育や園内研修を実施したことは、幼児教育の質の向上、幼小連携の充実について「オール喜多方」で取り組んでいることを強く実感することができた。

次年度については、次のことに特に注力していきたいと考える。

(1) 幼児教育の充実に関して

- 教育保育業務情報交換会議を継続して開催し、園同士のつながりを強化し、公立・私立を問わず公開保育を行えるよう支援していきたい。
- 要領・指針に基づく保育を展開できるよう、市の研修アドバイザーやふくしま幼児教育アドバイザーを活用し、各園の質の向上を図りたい。

(2) 幼小連携の充実に関して

- 各園・各小学校において、喜多方市版「架け橋期のカリキュラム」を基にした実践及び検証・改善等のPDCAサイクルを回していく。
- 幼児期及び幼小接続期の教育の重要性や架け橋期のカリキュラムの実施について、すべての園・学校の保育者と教員が理解できるよう各園・学校での研修の充実を促していく。

(3) その他

- 「架け橋期」の重要性及び喜多方市版「架け橋期のカリキュラム」の実践について、小学校へは市教委、各幼児教育施設へは市こども課がそれぞれ啓発活動を行うとともに、連携した取組をさらに推進していく。

架け橋期のカリキュラム(就学前施設)														架け橋期のカリキュラム(小学校)										南相馬市版 架け橋期のカリキュラム									
		就学前施設名														小学校名																	
共通の視点	月	0歳～	5歳児												小学校1年生												小学校2年生～						
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3								
南相馬市の 期待する子ども像		あそびで育つ 学びの基礎（自分の思いを伝える）												幼児期で培ったものを基盤に学習意欲へ																			
		【幼児期が目指す子ども像】○様々な環境に関わる中で豊かな感性が育まれ、色々な表現で伝えようとする子ども ○自分を大切にし、他者と共感しながら育ちあう子ども ○自分で考え、自分の思いを伝えることのできる子ども												【小学校1年生の目指す子ども像】 ○自分のことを自分で伝えられる子ども ○状況にあわせて、自分で考え、行動できる子ども																			
発達段階を踏まえた 先生のねがい		○ありのままの自分を受け止めて認めてもらいながら、自分の強みや興味に基づいた活動をとことん楽しむことができる。 ○健やかな体で安全で快適に生活するために、常々今何をすべきか、どうすれば良いのかを考え選択できるようになる。 ○あそびや生活の場で経験してきたことをもとに、主体的・自発的に活動し、工夫したり挑戦したりできるようになる。 ○自分なりの表現で人やものとかかわる経験を積み重ねることで他者とコミュニケーションを図り協働する力が付いていくようになる。												○知・徳・体・コミュニケーションのバランスの取れた「生きる力」を育むことを目指し、発達の段階や特性を踏まえ、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるようにする。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育活動を実施し、子どもが主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする。 スタートカリキュラム (入学後、1ヶ月程度) 【幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら】 ・生活科を中心とした合科的・関連的指導 ・個々の発達や強みを理解し、一人一人に合った配慮 ・児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるような課題設定、課題選択の場の設定、工夫した教材作成 等 ➡ ・1単位時間が45分となるように段階を追って実施 (発達段階及び学習内容に応じて臨機応変に実施) ・各教科等の年間授業時数を確保																			
◎ねらい ☆具体的な活動内容		1期 ◎進級した喜びを感じながら、様々な活動をやってみようとする。 ☆入園式 ☆こどもの日祝い会	2期 ◎自分なりの目的をもって、試したり工夫したりしながら、友だちと一緒にあそぶ楽しさを味わう。 ☆七夕会 ☆夏祭り ☆水あそび・プールあそび	3期 ◎友だちと互いに思いや考えを出し合い、力を合わせてあそびを進めようとする。 ☆運動会 ☆遠足 ☆さつまいも掘り	4期 ◎自分たちで考えたことをあそびの中で実現したり表現したりする楽しさを味わう。 ☆おたのしみ会（発表会） ☆クリスマス会	5期 ◎友だちと考えを出し合いながらあそびや生活を進め、やり遂げる喜びと充実感を味わう。 ☆学校探検 ☆節分 ☆ひな祭り ☆修了式	◎学校生活を知り、友だちや先生との信頼関係を築く。 ☆学校探検 ☆体育館あそび ☆給食当番・清掃活動 ☆方部児童会 ☆1年生を迎える会 ☆健康診断 ☆運動会 など	◎友だちや先生との信頼関係を深め、安心して学校生活を送る。 ☆5歳児との交流活動・避難訓練 ☆鑑賞教室 ☆遠足 ☆学習発表会 ☆マラソン大会 など	◎1年間を振り返り、2年生への進級に向けての期待感をもつ。 ☆1年生さよなら会 ☆6年生を送る会 ☆なわとび記録会 ☆カルタ大会 ☆修了式 など																								
配慮事項	先生の関わり	○それぞれの子どもの思いを尊重し、個々の発達に合った対応を心がける。 ○子ども自身が必要感をもった基本的な生活習慣の習得への意識を高める。 ○あそびの中での試行錯誤できる時間を十分保障し、子どもたち自身が考えたり工夫したりすることに保育士が寄り添う。 ○一人一人のあそびの充実や仲間との関わりを大切に子どもの心の動きを丁寧に読み取って配慮していく。 ○保育士の価値観や都合によって指示が多くなりすぎたり、否定したりせず、子どもがどんな時も安心・くつろぎ・自分らしく過ごすことができる環境づくりを行う。					幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現					○子ども一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を目指す。 ○子どもが主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていけるようにする。 ○インクルーシブ教育システムの理念の構築を目指し、全ての子どもが適切な教育を受けられるようにする。																					
	子どもの学びや生活を豊かにする環境構成	○心と体を十分に動かすことができたり、挑戦したり、主体的にあそびこめる環境の工夫 ○生活の中での気付きをあそびに取り入れ、互いに影響し合える環境づくり ○子どもの豊かな感性を引き出す環境づくり ○それぞれの子どもが自分の得意なことや好きな活動に取り組み、満足感が味わうことができるようになるための環境の工夫 ○担任の考えだけでなく様々な職員・地域の方などの協力やアイデアを活かしながら子どもが生活できる環境づくり					○1人1台端末を活用し、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、多様な一人一人の興味・関心等に応じ意欲を高め、やりたいことを深められる学びを目指す。 ○地域住民等と連携協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となって子どもの成長を支える。																										
園で展開される活動/ 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成		○自分の生活に必要な生活習慣を自ら身に付け、その大切さを理解して行動できるようになる⇒生活習慣が自立し、自信をもって生活する。 ○主体的な活動を通して自信を高め、自己を十分に発揮する⇒満足感や達成感を十分味わい、就学に期待をもつ。（お別れ会・修了式） ○身体全体を協応させる動作を楽しむ⇒全身運動がなめらかになり、積極的に様々な運動をする。（なわとび・とびばこ・鉄棒・ダンス） ○自分の思いや考えを伝え、相手の話を聞き自分と異なる考えや思いに気付く。⇒友だちの意見に共感したり、自分の思いを伝え合ったりしながら、仲間との関係を深める。（行事に向けた話し合い・毎日のミーティング） ○数量、図形、時間に興味をもち、生活やあそびの中で使う機会を増やす。⇒日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を高める。（学校ごっこ・サンタクロースへのお手紙・友だちへの年賀状・母の日父の日などのメッセージ・行事のプログラム・招待状作りなど） ○身近な自然やものを五感で感じ取り、思ったことや想像したことなどを、様々な方法で表現する。（野菜の栽培・生き物を飼育）⇒様々な知識や経験を生かし、創意工夫しながらあそびを発展させる。（水あそび・花を使った色水・どんぐりあそび・氷あそび）					道徳教育 ・生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。 ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 各教科等の学習・生活（小学校生活や教科等の学習に興味・関心をもち、主体的に関わる） <生活>みんなとなかよくなりたいな はじめまして がっこう <図工>どうぞよろしく <算数>なかよしあつまれ <生活>はなをそだてよう <国語>おおきくなった <算数>かたちあそび <図工>はこでつくったよ <国語>いいこといっぱい一年生 <生活>1ねんかんをふりかえろう ○生活科を中心に、時間を弾力的に取り扱い、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定する。 ○個と協働を往還する児童同士の学び合いを重視し、試行錯誤しながら実感を伴った理解を深めることができるような単元構成にする。																										
子どもの交流		各園で交流している内容や、今後取り組んでみたい内容を記入					1年生との園外活動（自然に触れ合う）5年生との避難訓練 6年生に手伝ってもらう運動会 1年生との学校探検					・学校行事 ・生活科の授業（秋を見つけよう） ・体育科の授業（一緒に縄跳びをしよう）																					
家庭や地域との連携		保育参観 引き渡し訓練 就学時健診 入園説明会 高齢者施設訪問 敬老会参加 園舎解放 運動会 修了式					・入学式 ・授業参観、学校公開 ・個別面談 ・運動会 ・学習発表会 ・なわとび記録会 ・就学時健診																										

黄色いセルは各中学校区で加筆していきます。
これは【例】です。校区の取組、特色をここに記していきます。

- 福島県幼児教育振興指針
～「遊びを創り、たくましく、共に育つ子ども」～

なかよく たくましく 生きる
～みんなと力を合わせ、よりよい生活の場をつくる～

- 喜多方市総合計画
～きたかた活力推進プラン～
○ 喜多方市教育振興基本計画
～地域を支え未来を拓く人づくりプラン～

【幼児教育】～学びの芽生え～
○経験重視「感じる」「気付く」「工夫する」「興味をもつ」「関わる」
○遊びを通した総合的な指導
◎10の姿を念頭に置きながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる
資質・能力の育成

この違いに子どもたちが
「ゆるやかに」馴染めるように、
幼小が互いを理解し合おう！
相互理解に基づき、指導方法を
見直そう！

【小学校教育】～自覚的な学び～
○到達度重視「できるようになる」「わかるようになる」
○教材（教科書）による授業
◎10の姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期に育まれた
資質・能力を踏まえて、教育活動を実施



5歳児

4・5・6・7

8・9・10・11・12

特にこの時期が重要！

1・2・3

4・5・6・7

小学校1年生

8・9・10・11・12

1・2・3

期待する子ども像

○自ら心を働かせて遊ぶ

やってみたい

○友達や先生と話し合う中で
気づく・学ぶ・深める

つなげる・深める

○お互いに刺激・協力し合って
やり遂げる

みんなと一緒にだ
もって楽しい

○新しい環境に徐々に慣れ、少
しずつ友達を増やしていく

安心・わくわく

○自分らしさを発揮し、学ぶこ
とへの興味・関心を広げる

自信・意欲

○友達と話し合いながら試行錯
誤し、工夫して学習する

学びに向かう基盤

内容（共通に行う遊び・活動）

○やってみたいことを試行錯誤
しながら繰り返し楽しむ
○身近な人と関わりながら興味
のある遊びを楽しむ

○遊びの中で、自分の思いを
実現する喜びを感じる
○友達と一緒に話し合いながら
遊びや活動を進め、失敗しても
次につながる経験の積み重ねを
繰り返し楽しむ
・運動会
・収穫祭（芋ほり）
・クリスマス発表会

○いろいろな友達と遊ぶことを
通して、協力することのよさに
気付く。
・グループやクラスで役割分担
のある遊び
（子どもたちの主体性を大切に！）
○園生活を振り返り、自分の成
長を自覚するとともに、友達
のよさに気付く。
・「楽しかったね！○○園」
（言葉やその他の方法で表現を！）

保育者も！

○期待をもちながら新しい友達
と生活や学習に取り組む。
・1年生を迎える会
（園で経験したことを無理なく！）
・「どきどきわくわく1年生」
（安心感を引き出す関わりで！）
・縦割り活動
（子ども同士の関わりを大切に！）

スタートカリキュラム
共通理解と確実な実施

○めあてに向かって、友達と協
力しながら学習する。
・学習発表会
・「たのしい秋いっぱい」

他学年の担任も！

○友達と話し合いながら試行錯
誤し、工夫して学習する。
・「冬を楽しもう」
・新しい1年生を招待しよう
・「1年間を振り返ろう」
・「大きくなった自分をみつめ
よう」

○友達や多様な人との触れ合いを楽しみながら、もっと楽しめ
るように工夫する

他園・小学校との交流

○季節やこどもの興味・関心
に合わせた柔軟な環境づくり

○友達・異年齢・地域など多様
な人とも自然なやりとりができ
る環境づくりや遊びの充実

環境構成（もの・ひと・時間・空間）

○十分に遊びを発展できる環境
・遊びの発展を保障する時間、
子どもの思考を持続させる空間
○園生活の楽しさ、成長を実感
できる環境、小学校への期待

○安心して楽しく生活できる環
境
○スタートカリキュラムに基づ
く無理のない時間割

幼児教育施設との交流

○自信や意欲をもって学習に取
り組む環境
・意欲を引き出す導入、成長を
感じられる振り返り

○1年間の成長を実感できる場
の設定
○2年生の学習や生活への意欲
を高める工夫

学習形態の工夫（ペア、グループ、コの字型）

保育者・教員との関わり

○肯定的で受容的な関わり
・活動の理解者
○それぞれの思いや気付きを認め、つなげる共感的な関わり
・共同作業者
・遊びの援助者
・憧れを形成するモデル

○充実感・達成感につながる関
わり
・「いいアイデアだね」
・「自分たちで工夫したんだね」
・「みんなと一緒に楽しかったね」
・「小学校でも使えそうだね」

○安心感を引き出す関わり
・「園でやったことある？」
・「園と比べて違うかな？」
・「みんなができるの知ってるよ」
・「○○さんのいいところ見付けた
よ」

○自信や意欲を引き出す関わり
・ほめる、認める、受け止める
・信じる、見守る、共感する

○成長の自覚を促す関わり
・1年間の成長に気づき、自信
をもたせる
・進級の喜びを感じさせる場の
設定

○安心して学習できる雰囲気づくり

○「何でもできる1年生！」としての関わり